

中国の中学生に対する英語リスニング授業の開発 —PCによるアニメーション吹き替えを生徒が行う授業—

徐 吟舒

千葉大学教育学部専攻生

本研究では、中国の杭州において中学生に英語のアニメーションの吹き替えをさせるという授業を開発する。従来の中国の英語教育には、画一的な教育方法や生徒が興味を持ってない教材が多いなどの問題点がある。そこで、情報機器を活用し、伝統的な教育方法に代えて、コンピュータでアフレコを使用することによって、英語リスニング意欲を高めさせる授業を行った。また、アフレコの基礎知識や事前準備の注意点についての学習に加え、自分の発音の問題点を意識させることもできた。この授業を通して、生徒に新しい視点と方法から英語の勉強をさせ、英語学習の楽しさを伝えることができた。

キーワード：英語リスニング、アニメーション、吹き替え

1. 問題の所在

1.1. 中国における英語教育の重要性

英語は国際交流の基礎として、世界の共通語になってきた。中国にとって、英語は国際交流の手段として、世界で使用する機会が一番多い外国語である。特に、1980年代以降、中国は改革開放の政策と急速な経済成長を背景に、様々な国際交流の機会も増えてきた。その中で、貿易におけるビジネス英語や学校間の国際交流用英語が徐々に重要性を増してきた。教育方面の英語の重要性が徐々に認識されてきた。陳国華(2008)¹は「グローバル리즘は今もなお進行中であるので、最終的には大部分の人が外国人と付き合う機会が与えられるだろう。そのために、中国の教育機関は英語教育を重要な地位に位置づけ、学校の授業において英語を重要視し、育成するという方針になるのは間違いない。」と言っている。

中国では、小学校から大学院までの教育課程に英語は必須科目である。専門にかかわらず、歴史、国語、また、大学で設置された漢方医学、考古学にしても英語もやらなければならない。

陳国華(2008)は「我が国の英語教育について政策と戦略」の中で次のようにいう。

従来、英語は中国で強制教育(詰め込み教育)、つまり「Compulsory Education」として存在する。

全国にほとんどの地域で小学校3年生から英語を勉強し始め、(それは、幼稚園前の段階で保護者から強制的に勉強させる塾を含まない。)それは大学院(修士と博士)まで重要なことである。つまり、英語は中国で唯一「継続して勉強する」科目である。²

英語が苦手なせいで、自分の興味を持っていることや得意な専門を勉強し続ける権利を剥奪される人も多い。陳国華(2008)は「英語は国民教育の基本内容として、重要性は国語と数学と同じである。このような考えに基づき、教育機関は英語を大学の入試試験に入れる。そのやり方は間違いではないだろう。」と言っている。

2001年に中国の教育機関は小学校の英語教育に対して継続的に基礎教育課程の改革を行い、重要な地位に位置づけるようになった。同時に、「小学校英語課程における積極的開発についての意見」³という政策を發布した。⁴

その政策は、2001年の秋から全国の都市と町の小学校が徐々に英語授業を取り入れることを定める。また、2002年の秋からは農村の小学校でも始まった。小学校の英語学習は大体3年生からである。それに伴い、英語の担当教師も大量に増加し、2010年ぐらいまでは小学校と中学校で採用された英語の教員はほとんど専門大学と大学を卒業した人だった。2010年6月までは、地域によって状況が少し違うが、都市、農村問わず全国で英語を小学校卒業試験が欠かすことができなくなった。

そして、2001年に中国大学入試試験の英語リスニング内容はわずか20点分、全体の13.3%しかなかったが、

Yinshu XU: The Development of English Listening Comprehension Curriculum for Junior Middle School Students of China
-The Case of Animation English Dubbed Using PC-
Preparatory Course of Graduate School, Faculty of Education, Chiba University

英語リスニングの重視のために、2002年に教育機関(日本の文部科学省に相当することである)からの政策で30点分に増え、全体の20%になった。⁵

これにより、ずっと大学入試試験を目標としていた学生にとって、中高の6年間の英語リスニング学習の負担が重くなった。

中国の浙江省について言えば、2007年から大学入試に高校の基盤的な英語試験の点数と全国英語レベル試験(PETS)⁶二級以上の点数が学生たちの個人的なデジタルファイルに入って、大学の入試の参考にされるようになった。⁷

また、英語のリスニングと会話能力の向上のために様々な「新しい課程基準」⁸が設定された。

さらに、2012年教育機関は「義務教育の期間の学科科目において19個の新たな課程の標準」⁹を定めた。つまり、国際の英語能力を判断する標準によって、基礎教育期間の英語課程について9つの段階を設定した。その目的は、学生の年齢と個人能力の要素を考え、異なる年齢層と認知能力の違いを体现するということである。¹⁰

以上の政策から中国における英語教育は「中国中が注目する科目」であるということがわかる。

1.2. 中国における英語教育の問題点

中国の教育において英語が重要視されるようになるのは、国際交流や国際貿易の振興にとって良いと考えられるが、長い間にはいくつかの問題が発生している。

1点目は、中国の英語教育は英語の文法と読解を重視し、応用能力である日常生活に重要な聞く能力と話す能力を軽視されたという事実が明らかになったことだ。

薛麗娟(2008)は「中学生の英語リスニングに影響する要素の分析及び対策」の中で以下のように述べている。

今中国の学生は英語リスニングの能力は他の文法や読解などの能力と比べて弱いため、英語の応用能力とコミュニケーション能力を制限している。

¹¹

また、傅麗紅(2011)は「中学校における英語リスニング授業の効果を高めさせるための行動研究」の中で以下のように述べている。

教師から見ると、中国の教師は英語リスニングを重視していないという問題がある。¹²

その結果、中国の学生は英語の総合的な応用能力が弱く、英語の勉強時間が非常に長くても、実際の生活と仕事に应用できる人は少ないという現状がある。例えば、

今でも、上海の通訳人材は非常に不足しており、世界とつながる中国の入口としての空港や「アリババ」というような有名な会社においても応用英語が上手な人材はまだ足りない。従来中国の英語教育は英語の理論知識を重視しすぎて、逆にリスニングと会話の応用能力が弱いことが問題である。

2点目は、英語に興味を持っている学生が少ないという点である。特に英語リスニングが弱いので、むしろ「嫌い」の気持ちを持っている学生が多い。

英語担当の先生とのインタビューを通して、多くの学生は英語リスニングに興味を持っていないせいで、英語リスニングの勉強に悪い影響を及ぼすということが分かった。¹³

筆者は2013年の3月に杭州に所在する建徳市新安江第二中学校と海寧市硤石中学校二つの中学校でアンケート調査を行った。今回のアンケート調査では中国の杭州の海寧市硤石中学校と建徳市新安江第二中学校二つの学校で中学生における英語聴解に取り組む姿勢、学習方法、実際の応用状況を調べた。

その結果を表1、表2に示す。

表1 建徳市新安江第二中学校

情報 学年	対象の人数 (人)	無効なアンケート (枚)	有効なアンケート (枚)	有効回答率
1年生	182	19	163	89.6%
2年生	94	6	88	93.6%
3年生	106	4	102	96.2%
合計	382	29	353	92.4%

表2 海寧市硤石中学校

情報 学年	対象の人数 (人)	無効なアンケート (枚)	有効なアンケート (枚)	有効回答率
1年生	140	16	124	88.6%
2年生	79	4	75	94.9%
3年生	84	7	77	91.7%
合計	303	27	276	91.1%

また、「英語のリスニングを練習する動機はなんでしようか?」という問いに対しての調査の結果を図1、図2に示す。

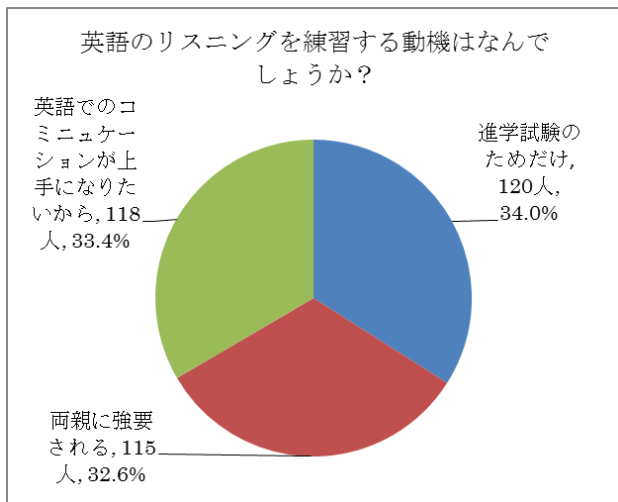


図1 建徳市新安江第二中学校

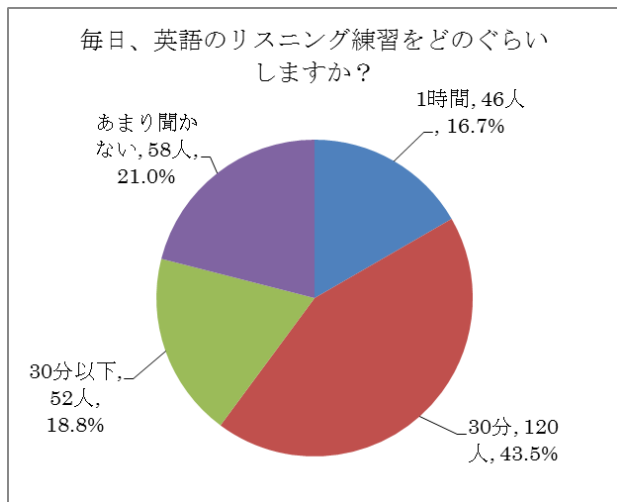


図4 海寧市硤石中学校

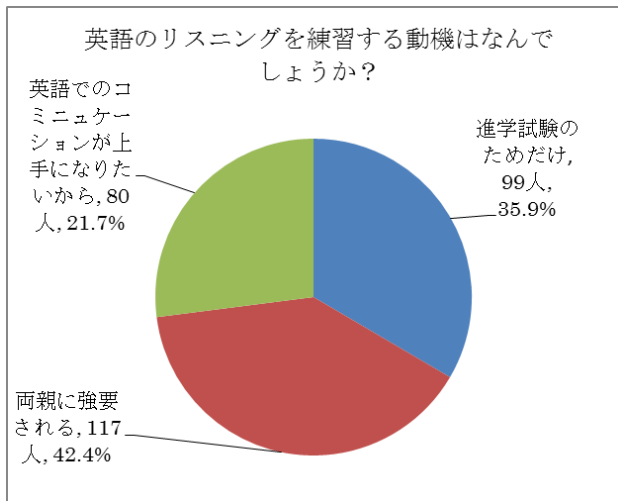


図2 海寧市硤石中学校

さらに、「毎日、英語のリスニング練習をどのぐらいしますか？」という問いに対しての調査の結果を図3、図4に示す。

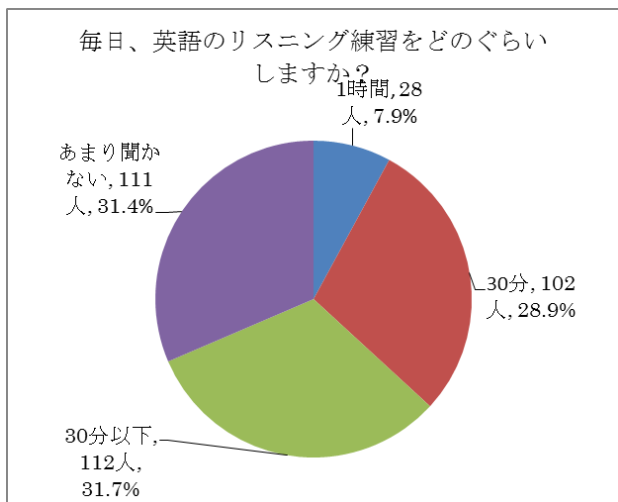


図3 建徳市新安江第二中学校

「あまり聞かない」と答えた生徒への「英語リスニングの練習が少ない原因はなんでしょか？」という問いに対して、建徳市新安江第二中学校の111人中98人が「あまり興味を持っていません」と答え、88.3%を占めた。海寧市硤石中学校からも58人中52人が同様の解答をし、89.7%を占めた。

3点目は、教師の面白い英語の授業開発が少なく、英語を練習させる方法が少ないということである。

王月玲(2011)は「英語リスニングの教え方を重視すべきだ」の中で以下のようにいう。

教材が面白くない、学生に興味を持たせないという問題も深刻だ。英語リスニングの教え方をもっと考えなければならない。授業中の雰囲気や教材の面白さなども重要だ。¹⁴

中国の教育機関は学生のリビングが弱いという事実を意識し、その能力の向上のための政策を作って、努力していることがわかった。しかし、試験を手段として、英語を高めさせるということは最善ではなく、逆に学生たちの意欲を失わせ、悪い効果を生んでいる。書面教材は英語文化圏の話題に関することについての試験問題集が多く、内容も大同小異である。アンケート調査によると、「普段、どんな教材を使って英語の聴解を練習するでしょか？」という問いに対して、建徳市新安江第二中学校と海寧市硤石中学校が「テキスト(試験の問題集)」と答えた人が58.1%と77.2%を占めた。

これにより、中国の学生は英語に興味を持たず、試験のために英語リスニングを練習する人数が多いということは明らかである。また、学生に意欲を高めさせる授業と教材の開発が急務である。

1.3. 中国における「熱心に英語を勉強させる」という

教育方針についての批判

1980年から現代に至るまでの30年ぐらいの期間で中国の英語教育はずっと重要な位置を占めている。同時に、様々な問題も発生してきた。そして、2013年の12回の全国政治協商会議で英語教育について批判の声が聞こえた。その批判者は中国社会科学情報研究院の院長、全国政治協商会議の委員であり、張樹華¹⁵と言う。張によると、「英語教育はただ社会の発展のためや国際交流の手段として設定された科目である。しかし、我々は本末転倒だった。英語の勉強のために学生の個性や興味を扼殺し、大量の教育資源は無駄になった。結局、英語人材の育成がまだ少なく、子どものストレスが段々重くなってきた。さらに、中国自国の漢文も大変の影響を受け、漢文もうまく使うことができない学生が多い。」と言っている。

張は中国の新聞社「中国青年新聞」から一般の市民に対する社会アンケート調査の結果を見て、この調査から上手に国語を応用できないという80.8%の人の中に54.4%の人が大学や大学院の学位を持っているということが分かった。それは皮肉な事実である。¹⁶

英語の勉強が過熱気味で幼稚園から学ばせる親も多い。自分の国語もまだうまく使えない段階で、英語も受けたら、子どもの天性と能力を失うことになる。

そのため、張は「中国の伝統的な教育方法に変化しなければならぬ」、「中国語を重視する」また「小学校から中学校まで英語の課程を大幅に減らす」ということを指摘した。

上述の部分をもとめると、現在の中国の英語教育にはいまだに課題が多く、適切な改善がなされるべきだということである。しかし、張樹華の意見の英語の授業を大幅に減らさせ、英語が勉強しなくても良いということは極端すぎではないだろうか。現在存在している若干の問題点について改善すれば良い。そのため、本研究は、中国の中学生に向け、英語学習の中に教材の画一化、生徒たちに興味を持ってもらえる授業が少ない、また英語リスニングが弱いなどの問題点について、アニメを吹き替えることを通して、英語リスニングの授業を開発したいと考えている。現在の情報社会に欠かせないコンピュータを利用して、アニメーションを吹き替えるという授業を考えた。

2. 授業の研究

2.1. 研究の目的

第1章で述べたその英語リスニングの重要性を踏まえ、現在の中国における英語リスニング授業の問題点に対して、アニメを吹き替えるという授業を開発したいと考えた。伝統的な教育方法に代えて、アニメーションの

吹き替えを行うことで、生徒たちの英語リスニングの意欲を高めることを目的とする。オリジナル作品と比較しながら、台詞のアフレコを行うことによって発音の問題点を意識させ、英語の音の識別能力を高めさせることができると思う。

2.2. 研究の方法

本研究では、まず、映画や映像材料などのアフレコ実例に関して先行研究の資料を調査し、アフレコの方法を明らかにする。今回の授業は中国の杭州のある学校を選び、中学二年生の生徒を対象として授業を行う。アニメーションを調べ、中学二年生に合うアニメの一場面を選ぶ。

筆者が中国の杭州の学校で実際の授業を行う。

授業の内容を考察し、授業記録の分析、授業の感想ややり方についてアンケート調査を行う。そして、子どもたちのコメントを参考にしながら、本授業プログラムの有効性を明らかにする。

3. 授業の開発

3.1. 海寧市硤石中学校の概要

今回の授業は中国の杭州における海寧市硤石中学校で行った。海寧市硤石中学校は海寧市の町の中学校で、現在1200名ぐらいの生徒が在学中で、全日制普通中学校である。海寧市硤石中学校は大体周辺の学校と同じレベルである。

学校の外観は図5に示す。



図5 海寧市硤石中学校

3.2. 授業事前の調査

授業の実践前に、中学校2年4班の英語担当の肖教員に中国のチャットアプリ「QQ」を利用して、インタビューを行った。生徒たちの英語リスニングについて実際の状況を調べ、以下のような情報が分かった。今普通の中学校は専門的な英語リスニング課程がない。通常、単元のような形式で英語リスニングを練習させる。つまり、毎日ではなく、テキストの内容によって、一つの単元を終わってから一回練習させる。また、高校入学試験が近づくと、毎日の昼休みに学校のラジオを利用して、英語の放送や練習する録音材料などを流し、生徒たちに

練習する機会を提供する。練習の内容は大体試験の問題集である。この練習は将来の高校の入学試験と大学入学試験のために設定された。今は、中高生の勉強負担が重すぎて、他の形式を通して練習する余裕がない。今の状況と比べて、生徒たちの意欲を高めさせるという目的で、もっと面白い英語リスニング課程を開発したら、生徒にとって良いことだ。試験問題集ではなく、面白い形式を通して、生徒たちに意欲を高めさせ、勉強できれば生徒も両親もきっと賛成する。しかし、今中国の教育制度で、試験問題集を通して、英語リスニングを向上させる形式を廃止することはできないというような問題も指摘された。

つまり、肖教員から今中国の教育制度で、試験問題集やテキストなど教材を廃止することはできないが、生徒に興味を持ってもらえる授業や教材を開発すれば良い。これは教師と保護者両方の希望であるということが分かった。

3.3. 授業のプラン

3.3.1. アフレコ利用のアプリ

今回の授業は中国のソフト「MKVtoolnix2.2.0」を利用し、アニメの吹き替えを行った。このソフトは mkv 形式で視覚材料の字幕と音声とを分解することができる。さらに、mkv 形式の視覚材料の字幕と音声は別に設定され、このソフトを利用して分けることができる。また、MKVtoolnix2.2.0 というソフトは、直接 USB でコピーして、コンピュータにインストールすることができる。授業でこれを利用すると、簡便であり、あまり時間がかからない。

3.3.2. プランの内容

中国の中学生はアニメーションのアフレコは初めてなので、コンピュータでどのようにアニメーションを吹き替えるかという操作の方法を詳しく説明する。次に、授業で予め選択したアニメーションの一場面を利用し、実践を行う。最後に、自分で作ったアニメを聴き、オリジナル作品と比較して、発音の問題点を意識させる。そのほか、今回の授業についてアンケート用紙を分析する。

3.3.3. プランの構成

授業の時間は約 60 分で、人数は 39 人である。アニメの内容は「不思議の国のアリス」の場面である。「不思議の国のアリス」は中国のスーパーマーケットで買ったものである。

●第1次 前半

授業のプログラムとアフレコ用コンピュータアプリのやり方を紹介する。

このような授業は初めてであるので、生徒たちの不安な気持ちを避けるために授業のプログラムを紹介する。また、授業は 60 分だけであるので、アプリの使い方が長くなるよう手短かに紹介する。アプリの名前は MKVtoolnix2.2.0 で、mkv の視覚材料の字幕と音声とを分解し、簡単に吹き替えることができる。

アフレコについてポイントと留意点を説明する。

アフレコには様々なポイントがある。主なことは以下の通りである。

(1) アニメキャラクターの台詞はアニメの魂である。そのため、単語の発音方法に注意しなければならない。発音方法を注意するために、必ず本来の音を模倣し、単語のイントネーションを習って、繰り返し練習する。その過程で英単語の発音の識別能力を高めさせる。

(2) アニメのシーンを把握する。悲しいシーンかそれとも楽しいシーンか自分で判断し、自分の気持ちを注ぎ、台詞を話す。その過程で、生徒たちにアフレコの知識を習得させるだけでなく、単語やセンテンスなど実際のシーンに沿って、発音と使い方を習得させる。それは伝統的なテキストより面白く、生徒たちの意欲を高めさせる可能性がある。

(3) 登場人物の性格を把握しなければならない。人物の性格を把握しなければ、人物の言い方やアクセントなども十分に把握することができないかもしれない。アフレコを順調に行うことができない可能性もある。

また、5 分ほどの時間を利用し、「不思議の国のアリス」やアフレコについて英語で自由に話す。それは、外国語表現の能力を鍛えさせる。

●第2次 後半

生徒たちにアニメを吹き替えさせる。

まず、台詞の資料を配って、グループを分け、各自で発音や役割の台詞を練習する。

次に、グループごとに順番に前へ出て、パソコンを利用して吹き替える。

最後に、作った作品を皆に評価させ、お互いに意見を出し、発音の問題を探す。

授業の目標は、以下の 5 点である。

- ・自由に話すことで、綺麗な英語だけでなく日常生活の中で相手の話を聞きとれようとする。また、自分の考えをはっきり伝えようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

- ・台詞の内容に関する英文が正確に聞き取れる。(外国語表現の能力)

- ・台詞を見て、オリジナル作品の発音を意識しながら吹き替える。(外国語表現の能力)

- ・音声材料に含んでいる単語やフレーズ、文法知識などを習得できる。(言語や文化についての知識・理解)

- ・リスニング学習の技能を意識し、吹き替えるの技能を理解する。(言語や文化についての知識・理解)
また、単元の評価規準を表3に示す。

表3 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力
「不思議の国のアリス」やアフレコについて英語で話せる。	会話の内容をグループでアフレコすることができる。また、発音はできるだけ原版の音声を真似る。	吹き替えるという内容を十分に理解できる。

3.4 アフレコの内容

子どもが話す家庭教師とアリスの会話の部分を表4に示す。アリスとウサギの会話の部分を表5に示す。

表4 家庭教師とアリスの会話

Teacher: Alice, will you kindly pay attention to your history lesson?
Alice: I'm sorry, but how can one possibly pay attention to a book with no pictures in it?
Teacher: My dear child, there are a great many good books in this world without pictures.
Alice: In this world, perhaps, but in my world, the books would be nothing but pictures.
Teacher: Your world? Huh, what nonsense!

表5 アリスとウサギの会話

Alice: Oh, Dinah. It's just a rabbit with a waistcoat and a watch!
Rabbit: Oh, my fur and whiskers! I'm late! I'm late! I'm late!
Alice: This is curious! What could a rabbit possibly be late for? Please Sir!
Rabbit: I'm late! I'm late! For a very important date. No time to say hello, Goodbye! I'm late! I'm late, late, late!

4. 研究結果の分析と個別生徒の振り返り

- ・英語リスニングについて興味を高めることの効果
2013年3月、中国の杭州で建徳市新安江第二中学校と海寧市硤石中学校、二つの学校で中学生における英語

聴解の学習状況についてアンケート調査を行った。アンケート調査によると、「英語リスニングについて興味を持っていますか?」という問いに対して、あまり興味を持っていないと答えた割合が78.9%と75.5%と多くを占めていた。

今回この授業後の振り返りカードから授業の評価を通して、全体の82.1% (39名中32名) が「英語リスニングに意欲を高めた」と答えた。また、「今後このような形式の授業を続けたいですか?」という問いに、39人中35人が続けたいということを選択した。生徒たちからの支持が私の研究の励みとなった。

- ・英語発音の問題を意識し、英語単語の音の選別に役に立つ。

振り返りカードによると、「オリジナル作品の音声に近づくために、模倣して、いままでの間違った発音、特にアクセントを意識することができた」とあった。このような問題が意識できれば、今後の英語リスニングの音の選別に役に立つだけでなく、自分の会話の発音能力も高めることができる。

平成25年海寧市硤石中学校で授業実践の後、生徒たちと連絡先を交換して、インターネットで交流することができるようにした。そして、QQで一人の生徒の沈さんにインタビューを行った。このインタビューを通して、以下の情報が分かった。沈さんは今まで英語リスニングについて難しくつまらないという気持ちを持った。理由は英語授業の練習も試験もリスニングの点数が高くないためだ。だんだん勉強したくない、英語に対して嫌な気持ちを持ち始めた。通常、英語の担当の教員は授業も試験問題集の形式で練習させるだけなので、勉強したくない気持ちを持っている。しかし、今回の授業を通して、英語リスニングの楽しさを感じた。この前までは、英語リスニングについて言えば、点数を取るための試験式の英語リスニングという印象を持っており、怖くてつまらないと思っていた。今回の授業はテキストの内容と違い、自分がそんな形式で英語リスニングを勉強した経験がなかった。となりのクラスメートも羨ましいと言っていた。将来、このような授業をまた受けたい。しかし、mkvのアプリは少し面倒くさいと言われた。教室の前に置いてあるパソコン使えないので、時間もかかる。皆もっと多い会話を吹き替えたいので、便利なアプリあれば良い。また、内容は簡単である方が自信がとり戻すことができる。

5. 今後の課題

今回の授業は時間の制限のせいで、ただmkvの形式のアニメに対して吹き替えるしかなかったが、今後はも

っと使いやすいアプリを利用して、多様多種の形式のアニメを吹き替えたいと考えている。例えば、今流行っている iPad で、「iMovie」というアプリを利用して、アニメを見ながら吹き替えることができる。

グループを順番ごとに前に出てきて実践していたのでは非常に時間がかかるので、今回はコンピュータ教室を用意しなければならぬ。コンピュータ教室を用意すれば、時間を節約することができる。

最後に、今回の授業は中国の杭州の中学生を対象として行った授業であるが、今後、中国の他の地域、また日本及び世界の国々でも実践していきたいので、もっと研究が必要だと考えた。

6. おわりに

今回の授業を通して、アニメのアフレコの方法や、英語発音の問題点を習得させ、生徒たちに英語リスニングの意欲を高めさせることができた。教師は、レッスンを組み合わせたり、メディアを活用したりすることで、レッスンをより面白くすることができる。

¹ 陳国華 中国外語教育研究センターの副主任、教授である。研究分野は英語言語学、英漢翻訳、詞典学である。

² 陳国華 (2008) 「我国英语教育的政策与策略」(我が国の英語教育について政策と戦略)、<http://wenku.baidu.com/link?url=UQpiy4YddO4or2U1avOs khAMKlnuP6QtOM5F8zPR4fQyRXgtbZpBcgOhC-MhRxxS O25QegKl61vEnn8cwIwtICFifVsKXBCz8VGm7KXINFm> (2014年1月19日確認) (原文は中国語。翻訳は引用者による。)

³ 「关于积极开发小学英语课程的若干意见」(小学校英語課程における積極的開發についての意見)は2001年1月18日に教育機関から発布された政策である。その政策は小学校を対象として、英語能力を高めさせるために制定された。

⁴ 侯俊萍 (2012) 「影响中国小学英语教育发展的政策解读」(中国の小学校における英語教育の発展に影響する政策の解説)、陝西高等教育、第6号、p.17 (原文は中国語。翻訳は引用者による。)

⁵ 小尼倉 (2011) 「浅谈中学英语听力技能及其应试技巧的有效训练」(英語リスニングの論文と英語リスニングの技能—中学校における英語リスニングについて技能及び試験のテクニック)、読解と書写・下旬版、第2号、p.2 (原文は中国語。翻訳は引用者による。)

⁶ 「全国公共英语等级考试」(全国英語レベル試験 PETS)の正式な名称は「Public English Test System」である。これは中国の政府とイギリスの政府の交流項目として中国の教育機関から設置されたテストである。試験は筆記試験と口頭試験がある。

⁷ 詳しくは、次のページを参考のこと。

「从2007年起,浙江省普通高校招生采用目前相对权威的统一考试的英语听力和口语成绩载入考生电子档案」

(2007年から浙江省の普通高学校における新入生について新たな要求)

<http://www.zxxk.com/ArticleInfo.aspx?InfoID=22337> (2014年1月16日確認) (原文は中国語。翻訳は引用者による。)

⁸ 「新课标」(新しい課程基準)は中国の教育における基盤的な政策である。これは前の教材に基づき、内容から形式に至るまで改革された教材である。使用の範囲は小学校から高校校までである。

⁹ 「新版义务教育英语课程按能力设9级」(義務教育の期間で学科科目において19個の新たな課程の標準)は国際用の英語能力を判断する標準によって、基礎教育期間の英語課程を9段の段階を設定することである。

¹⁰ 詳しくは次のページを参考のこと。

「新版义务教育英语课程按能力设9级」

(義務教育の期間で学科科目において19個の新たな課程の標準) <http://www.docin.com/p-373326034.html> (2014年1月15日確認) (原文は中国語。翻訳は引用者による。)

¹¹ 詳しくは次のページを参考のこと。

薛麗娟(2008)「影响中学生英语听力的要素分析及对策」(中学生の英語リスニングに影響する要素の分析及び対策) 上海大学市北附属中学校

http://www.chinadmd.com/file/saatc6uszizostxr3wvxszuz_1.html (2014年1月16日確認) (原文は中国語。翻訳は引用者による。)

¹² 傅麗紅 (2011) 「提高中学英语课堂听力教学效果之行动研究」(中学校における英語リスニング授業の効果を高めさせるための行動研究)、新しい課程基準(上旬)、第10号、p.128 (原文は中国語。翻訳は引用者による。)

¹³ 傅麗紅 (2011) 「提高中学英语课堂听力教学效果之行动研究」(中学校における英語リスニング授業の効果を高めさせるための行動研究)、新しい課程基準(上旬)、第10号、p.128 (原文は中国語。翻訳は引用者による。)

¹⁴ 王月玲(2011)「应重视英语听力的教学方法」(英語リスニングの教え方を重視するべきだ)

http://wenku.baidu.com/link?url=UvDH8r6VWn9BfBJzNgkXhJ5orj2C3EuywyN4OusIZ480VmfDwvzTqpNKoT1BhE-CW4C2u-E4uByuwCPveU6Y63vKhetcdF_KAW_dbsxvG93

(2014年1月19日確認) (原文は中国語。翻訳は引用者による。)

¹⁵ 張樹華は中国社会科学情報研究院の院長、全国の政治協商會議の委員である。

¹⁶ 詳しくは次のページを参考のこと。

「政协委员：学英语使中国教育质量遭毁灭性打击」

(政治協商會議の委員によると英語の勉強は中国の教育にとって最悪の効果を招く)

<http://news.163.com/13/0312/14/8PP7G12A0001124J.html> (2014年1月16日確認) (原文は中国語。翻訳は引用者による。)